金融と日本銀行

名前

問1　日本銀行が「売りオペレーション」を実施した際、市場ではどのような変化が起こりますか。操作の内容と、その後に期待される経済への影響の組み合わせとして正しいものを選びなさい。（2026年 栃木県公立入試 類似）

1. 日本銀行が政府から直接国債を引き受けることで、国の予算を増やし、公共事業が活発化する。
2. 日本銀行が国債を売却することで、市場の通貨量が減少し、過度な景気拡大や物価上昇が抑えられる。
3. 日本銀行が国債を買い取ることで、市場の通貨量が増加し、企業の設備投資や個人消費が刺激される。
4. 日本銀行が金利を直接下げることで、市場の通貨量が増加し、デフレ脱却が図られる。

問2　日本銀行が行う公開市場操作のうち、不景気の時に行われる、日本銀行が民間銀行から国債などを買い取ることで通貨量を増やし、利下げを促す政策の名称として正しいものはどれですか。（2021年 鳥取県公立入試 類似）

1. 円高誘導
2. 売りオペレーション
3. 買いオペレーション
4. 預金準備率操作

問3　日本の中央銀行である日本銀行が、国内で唯一、日本銀行券（紙幣）を発行できる独占的な権限を持っていることを指す役割として、適切なものはどれですか。（2020年 神奈川県公立入試 類似）

1. 銀行の銀行
2. 発券銀行
3. 政府の銀行
4. 管理通貨制度

問4　不況（景気後退）の際、日本銀行が景気を刺激するために行う金融政策として、適切な説明はどれですか。（2021年 千葉県公立入試 類似）

1. 日本銀行が一般の銀行から国債を買い、市場に出回る通貨の量を増やす。
2. 日本銀行が所得税の増税を決定し、家計の消費を抑制させる。
3. 日本銀行が一般の銀行に国債を売り、市場に出回る通貨の量を減らす。
4. 日本銀行が公共事業の支出を増やし、雇用の機会を創出する。

問5　物価が持続的に上昇し、1万円で購入できる商品の量が以前よりも少なくなっている状況において、日本銀行が実施する「公開市場操作」の内容とその目的、および利子の変化の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2024年 沖縄県公立入試 類似）

1. 日本銀行が国債を買い、市場の通貨量を減らして、利子を上げさせることで景気を抑制する。
2. 日本銀行が国債を売り、市場の通貨量を減らして、利子を上げさせることで景気を抑制する。
3. 日本銀行が国債を買い、市場の通貨量を増やして、利子を下げさせることで景気を刺激する。
4. 日本銀行が国債を売り、市場の通貨量を増やして、利子を下げさせることで景気を刺激する。

問6　景気が悪化している局面において、日本銀行が「買いオペレーション」を実施した場合、市場ではどのような変化が起きると考えられますか。最も適切なものを選びなさい。（2021年 新潟県公立入試 類似）

1. 民間銀行が保有する資金量が増え、企業への貸し出しや投資が行われやすくなる。
2. 日本銀行が国債を売却した影響で、市場の通貨が回収され、インフレーションが鎮静化する。
3. 民間銀行から資金が吸い上げられるため、市場の通貨量が減少し、通貨の価値が上昇する。
4. 世の中の資金供給が制限されることで、銀行の貸出金利が上昇し、住宅ローンの利用が減少する。

問7　景気が悪化している局面において、市場に流通するお金の量を増やして景気を刺激するために、日本銀行が行う金融政策の内容として最も適切なものはどれですか。（2020年 大阪府公立入試 類似）

1. 日本銀行が市中銀行から国債を買い入れ、代金を支払うことで市場の資金を増やす。
2. 日本銀行が市中銀行に対して国債を売却し、市場から資金を吸い上げる。
3. 金融庁が各銀行に対して、企業への貸し出しを厳格に制限するよう命令を出す。
4. 財務省が所得税などの増税を決定し、家計の消費を抑制させる。

問8　日本銀行が景気を上向かせるために実施する「買いオペレーション」という仕組みと、その結果として期待される物価の動きの組み合わせとして正しいものはどれですか。（2017年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 日本銀行が市中銀行へ国債などを売り、代金を受け取ることで通貨量を減らし、デフレーションを維持する。
2. 日本銀行が市中銀行から国債などを買い取り、代金を支払うことで通貨量を増やし、物価を上昇させる。
3. 日本銀行が市中銀行から国債などを買い取り、代金を支払うことで通貨量を減らし、物価を安定させる。
4. 日本銀行が市中銀行へ国債などを売り、代金を受け取ることで通貨量を増やし、物価を上昇させる。

問9　現代の経済において、貨幣が「価値の尺度」としての機能を果たしていると言える具体的な事例として、最も適切な説明はどれですか。（2021年 佐賀県公立入試 類似）

1. 市場において、自分が持っている魚と相手が持っている野菜を直接交換し、取引を成立させた。
2. スーパーマーケットで商品の値札を確認し、複数の商品の価格を比べることで、どちらがより安価かを判断した。
3. コンビニエンスストアで弁当を購入する際、レジで現金や電子マネーを提示して商品を受け取った。
4. 将来の急な支出に備えるため、毎月の給料の一部を銀行口座に預金として預け入れた。

問10　中央銀行は、通貨の供給量を調節することで物価の安定を図ります。景気が過熱し、物価が上がりすぎると判断された際、日本銀行が市場の通貨量を減らすために行う適切な操作はどれですか。（2017年 静岡県公立入試 類似）

1. 保有する国債を市中銀行に売却する
2. 公共事業を増やして市場にお金を流す
3. 減税を実施して家計の消費を増やす
4. 市中銀行から国債を買い取る

問11　将来起こるかもしれない不測の事故や病気などのリスクに備え、多くの人々があらかじめ一定の資金を出し合って備える「相互扶助」の仕組みを運営している、銀行などと同じ金融機関の一種として適切なものを次の中から選びなさい。（2021年 千葉県公立入試 類似）

1. 中央銀行
2. 証券会社
3. 保険会社
4. 格付け会社

問12　日本銀行が「銀行の銀行」としての機能を果たしている状況として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 鳥取県公立入試 類似）

1. 国内で唯一、日本銀行券を発行して市場に流通する通貨の量を調節する。
2. 景気や金融システムの安定を目的として、民間の銀行に対して資金を貸し付ける。
3. 一般の家計や企業に対して、住宅ローンや事業資金の貸し出しを行う。
4. 国が徴収した税金を一括して管理し、年金の支払いなどの事務を行う。

問13　銀行の仕組みにおいて、預金者、銀行、企業の三者の間で流れる「利子」の関係について、正しい説明を選びなさい。（2023年 和歌山県公立入試 類似）

1. 銀行が預金者に支払う利子は、銀行が企業から受け取る利子よりも多い。
2. 銀行が企業から受け取る利子は、銀行が預金者に支払う利子よりも多い。
3. 銀行は、企業から受け取った利子の全額を、そのまま預金者に分配する。
4. 銀行は預金者に対して利子を支払わず、企業から受け取る利子のみで運営される。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 日本銀行が国債を売却することで、市場の通貨量が減少し、過度な景気拡大や物価上昇が抑えられる。	日本銀行が一般の金融機関に国債を売る（売りオペレーション）と、金融機関が代金を支払うため、市場の資金が日本銀行に吸い上げられます。これにより市場の通貨量が減り、お金を借りる際の金利が上昇しやすくなるため、投資や消費が抑制され、景気の過熱を鎮める効果があります。
問2	答え 3 買いオペレーション	景気が停滞している局面では、日本銀行は市場に資金を供給して景気を下支えします。日本銀行が債券市場で国債を「買う」ことで、銀行の手元資金を増やし、世の中全体の通貨量を増大させるこの仕組みを「買いオペレーション」と呼びます。対して、好景気で物価高が懸念される際に行われるのが「売りオペレーション」です。
問3	答え 2 発券銀行	日本銀行は日本で唯一の「中央銀行」であり、日本銀行券を発行する独占的な権限を持っています。この役割を「発券銀行」と呼びます。このほか、民間の金融機関を相手に資金の貸し出しなどを行う「銀行の銀行」としての役割や、国庫金の出納などを行う「政府の銀行」としての役割を担っています。
問4	答え 1 日本銀行が一般の銀行から国債を買い、市場に出回る通貨の量を増やす。	景気が悪いとき、日本銀行は一般の銀行が持っている国債を買い取る「買いオペレーション」を行います。これにより、代金として支払われた現金が一般の銀行に供給され、世の中に出回る通貨の量が増加します。その結果、企業や個人が資金を借りやすくなり、経済活動が活発化して景気の回復が図られます。なお、増税や公共事業は政府が行う財政政策であり、日本銀行が行う金融政策とは区別する必要があります。
問5	答え 2 日本銀行が国債を売り、市場の通貨量を減らして、利子を上げさせることで景気を抑制する。	「1万円で購入できる商品の量が少なくなっている」という説明は、貨幣価値が下がり物価が上がっているインフレの状態を指しています。この局面で日本銀行は、景気を冷やすために市場からお金を吸い上げる必要があります。日本銀行が国債を売ることで、民間銀行の手元にある資金を減らし、結果として世の中の金利（利子）を上昇させ、過剰な投資や消費を抑える仕組みです。
問6	答え 1 民間銀行が保有する資金量が増え、企業への貸し出しや投資が行われやすくなる。	買いオペレーションが実施されると、日本銀行が代金を支払うことで、民間銀行の手元にある資金が増加します。銀行は余った資金を企業への融資や個人へのローンに回そうとするため、市場全体の金利が低下し、経済全体にお金が回りやすくなります。これは不景気を脱出するための典型的な金融政策の手法です。
問7	答え 1 日本銀行が市中銀行から国債を買い入れ、代金を支払うことで市場の資金を増やす。	不況の際、日本銀行は「公開市場操作」の一つとして、民間の金融機関（市中銀行）が保有する国債などを買い取る「買いオペレーション」を行います。これにより、銀行が貸し出しに回せる資金が増え、世の中に流通するお金の量が増加することで、金利が下がり経済活動が活発になることが期待されます。
問8	答え 2 日本銀行が市中銀行から国債などを買い取り、代金を支払うことで通貨量を増やし、物価を上昇させる。	買いオペレーションは、日本銀行が民間の金融機関（市中銀行）から国債などを買い入れる操作を指します。これにより、代金として日本銀行から市中銀行へ現金が支払われるため、市場に出回る通貨の量が増加します。お金の量が増えて借りやすくなると、モノやサービスへの需要が高まり、下落傾向にあった物価を上昇に転じさせることが期待されます。
問9	答え 2 スーパーマーケットで商品の値札を確認し、複数の商品の価格を比べることで、どちらがより安価かを判断した。	価値の尺度とは、貨幣を基準にして「商品の価値がいくらであるか」を測る働きのことです。値札を見て商品の価値を「価格」として把握し、他と比較する行為はこの機能に直接該当します。他の選択肢のうち、代金を支払う行為は「支払手段」、預金として蓄える行為は「蓄蔵手段」の説明です。また、直接交換は貨幣が介在しない物々交換の事例です。
問10	答え 1 保有する国債を市中銀行に売却する	景気が過熱している場合、日本銀行は「公開市場操作（売りオペレーション）」を行い、保有する国債を市中銀行に売却します。これにより、市中銀行が持つ資金が日本銀行へと吸い上げられ、世の中に出回る通貨の量が減少します。その結果、金利が上昇し、企業の投資や個人の消費が抑えられることで物価の安定が図られます。
問11	答え 3 保険会社	大勢の人が少しずつ保険料を出し合い、万が一の事態が起きた人にその中から保険金が支払われる仕組みを相互扶助といいます。保険会社は、このような仕組みを通じて人々の生活や企業の活動を経済的に支える役割を担っており、預金を取り扱う銀行などと同様に金融機関の一つとして分類されます。
問12	答え 2 景気や金融システムの安定を目的として、民間の銀行に対して資金を貸し付ける。	「銀行の銀行」という役割は、取引の相手が民間の金融機関であることを指します。民間の銀行が一時的な資金不足になった際に日本銀行が資金を融通することで、連鎖的な倒産を防ぎ、金融システム全体の混乱を回避する役割を担っています。国の資金を扱うのは「政府の銀行」の役割であり、また日本銀行は一般の個人や企業とは直接の取引（貸し出しや預金）を行わないという点が、民間の銀行との決定的な違いです。
問13	答え 2 銀行が企業から受け取る利子は、銀行が預金者に支払う利子よりも多い。	銀行が持続的に経営を行うためには、家計（預金者）への支払いコストを上回る収益を、資金の貸出先（企業など）から得る必要があります。そのため、貸し出しの利子を高く、預金の利子を低く設定する仕組みになっています。この利子の差があることで、銀行は人件費や店舗の維持費を賄い、利益を出すことができます。